

# Industrial Automation Business

産業システム事業



小野木 聖二  
株式会社 山武 取締役  
山武産業システム株式会社  
代表取締役社長

## 主な市場

- ◆ 石油化学 / 化学
- ◆ 社会環境
- ◆ 石油精製
- ◆ 電力・ガス
- ◆ 鉄鋼
- ◆ 食品
- ◆ 薬品
- ◆ 自動車
- ◆ 紙パルプ
- ◆ 半導体
- ◆ 船舶
- ◆ 電機・電子

## メッセージ

当事業部門の基幹事業会社である山武産業システムでは、「ニュー・オートメーション・ナビゲーター (New Automation Navigator)」つまり、顧客現場を重視した創造的協働スタイルで、顧客ミッションの実現を達成するという事業コンセプトを着々と具体化してまいりました。

市場環境は、国内産業設備投資意欲が依然として低迷していることから、厳しい状況は変わりませんが、顧客のコンピタンス確立のための選別投資は積極的に継続しています。顧客の投資効果を最大にするソリューション提供をコア事業として進めている当事業部門では、顧客のコアコンピタンス確立に密着した事業を展開し、また、顧客満足度をさらに高めるための業務構造変革を推進し、顧客へのソリューション提供のQCD管理を徹底しています。

事業領域としては、顧客製造現場でのソリューション提供から顧客の生産管理・品質管理・研究開発へのソリューション提供に拡大しました。顧客設備運用管理に着目したAAM (Automation Asset Management) 事業では差別化された音響診断技術を駆使したシステム化を実現しています。また、昨今のリスクマネージメントレベルの向上要求に対応した製造部門や研究開発部門での品質管理・安全管理のソリューションやサービスの提供も、食品・医薬品市場を中心に拡大しています。

## 当年度業績と事業活動

船舶、官公需等一部市場は減少したものの、産業システム事業の売上高は、527億4千3百万円と前年度比6%の増加となりました。

収益面では、国内IA事業で大幅な増益となったことに加え、海外IA事業の損失も減少したため、営業損益は2億4千5百万円の損失計上と前年度から5億7千1百万円損失が減少



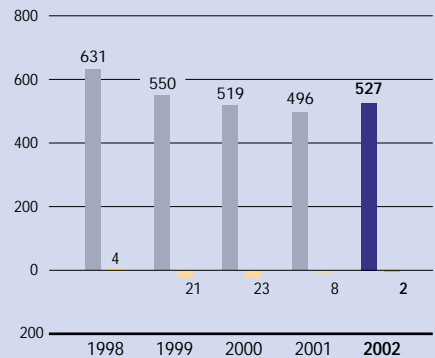
化学・医薬プラント向け防振形運転操作端末  
防振形スーパーバイザリ・ステーション



プラント用モバイルコンピューティング  
PlantWalker-HV

## 売上高 / 営業利益

億円 ■ 売上高 ■ 営業利益



しました。

産業システム事業を展開する産業界においては、世界経済の減速とIT需要の減退などにより、業界全般的に設備投資が大きく抑制され、山武の事業環境は前年に引き続き厳しい状況が継続しました。

このような環境下、当社は、高度化・最適化ジョブの積極的な営業活動の継続と付加価値の高いMES (Manufacturing Execution System: 生産管理、品質管理、装置管理システム) への転換促進、省エネ促進のための監視・制御及び計量機器整備の積極展開、協調オートメーション・システム「Harmonas」によるリニューアル案件および新規案件の受注獲得、新規顧客の開拓など多岐にわたり精力的な拡販活動を進めました。

生産部門におきましては、海外調達やバリュー・エンジニアリングを中心にコストダウンを主要製品別に展開し、海外調達においては、ロスト铸件を中心に中国の大連山武機器有限公司と連携し展開することにより、世界標準レベルの品質を確保しました。

この結果、市場別の状況では、石油精製市場で、環境対応および備蓄システム等の更新・改造の大口案件が始め、売上高が前年度比33%の大幅増となり、化学市場でも汎用製品の大型設備化、収益性の高い製品における製造設備への投資意欲が旺盛で好調な売上を収めた他、エネルギー市場ではLNG (液化天然ガス) 関連案件に注力して中小ガス会社で成果が出て、前年度比14%増の売上高となりました。

薬品・食品市場でも、顧客企業の安全対策投資の増加を受けた大型のMESの拡販を進めたことにより、売上高は前年度比59%増と大幅に伸長しました。

## 今後の展望

次年度の事業計画のポイントは、事業基盤をさらに強固にすることです。そのために、プロダクト事業では、顧客現場での

ソリューション提供をより拡大するために、顧客ニーズに即した数多くの新商品投入に注力します。特に、国内では第5次排水総量規制対応や、環境・省エネ関連投資向けなどの商品群を拡充し、また海外においてはグローバルプロダクトの開発を推進します。

システム事業では、コンビナート地区再活性化のためのシステムリニューアル、エネルギー転換を捉えたエネルギーサプライチェーン向けの管理システム、投資の堅調な川下産業分野 (ファイン化学、薬品、食品) における製造管理・品質管理システム構築及び自動車・機械・電機電子産業分野での省エネルギー環境安全のための総合ユーティリティ管理システムなど、的を絞った展開を行います。

また、現場から管理システムまでの首尾一貫した提案を支えるライフサイクル・ソリューションとして、フィールドエンジニアリング事業は、コンビナート地区の一括定修請負、環境プラント運用支援、品質管理のためのキャリブレーションサービスやHACCPサービスなどを基幹保全サービスに加えて、総合エンジニアリングサービスとして拡大していきます。

中期的視野に立った事業戦略では、事業を成長戦略カーブに乗せるべく、基幹事業の周辺拡大はもとより、オートメーション資産の最適な設備運用を実現しプラントのライフサイクルでの経済性を追求するAAM事業を、現在の設備診断を中心とした事業からライフサイクルにわたる総合的なパートナーとしての顧客満足を提供する事業へ幅を広げていきます。さらに、顧客業務プロセスの改善を支援するために、高度な専門性とノウハウをベースとした、コンサルティング・ビジネス領域へも拡大を進めます。

次年度の業績に関しては、国内では薬品・食品等の内陸型産業に対する問題解決型営業の強化、海外では現地法人の中小ジョブ処理能力の向上等により、売上高560億円 (当年度比6%増)、営業利益は2億円の黒字化を予想しています。